

和歌山 人・もの・地域

# 和

n a g o m i

Vol.52  
2023

## 聖地リゾート! 和歌山

祈りの聖地・高野山で人々は五輪塔に想いを込める  
万葉人が憧れた和歌の浦は、絶景と和歌に彩られた海洋リゾートの原点だった  
発酵の聖地  
鯨とともに生きる太地町、変化していく鯨との絆

知事対談 牛窪恵×岸本周平

記憶に残る和歌山の風景 [野中の一杉]  
Wakayama 移住定住ヒストリー  
寒いぞ! 和歌山 [アンフィ合同会社]  
プレミアム和歌山 [有限会社ヒカル・オーキッド]

高野山奥之院参道に建つ苔むした五輪塔



知らないオドロキが色々

# 聖地リゾート!!!!

Seichi Resort  
WAKAYAMA

## 和歌山

高野山・熊野に代表される「**S**pirituality(精神性)」、  
和歌山の自然の豊かさに象徴される「**S**ustainability(持続可能性)」、  
そしてその豊かな自然から生み出される上質な「**S**erenity(静けさ)」。

この三つの「**S**」が揃う和歌山には、古くから神々の棲む聖地だけでなく、  
文化や歴史、温泉や食、アミューズメントといった様々な聖地が存在する。  
そして、すべての人々を寛容に迎え入れてきた和歌山は、  
訪れた人々の心と体を優しく癒し、再生する「聖地リゾート」だ。  
あの山の向こうへ。  
海を渡り、川を越え、日が昇り沈むあの国へ。  
和歌山は今も昔もオドロキに満ちている。





①参道のあちこちで見かける前掛けをつけた一石五輪塔。②五輪塔を模した多宝塔の形状は空海が発明したといわれている。③5つの石材それぞれに、梵字が刻まれている。④山麓から弘法大師御廟へと誘う道しるべの町石。それ自体が信仰の対象で、人々は町石に向かって合掌しながら高野山を目指した。⑤巨大な五輪塔の部材を運ぶ様子を描いた「紀伊国名所図会」(国立国会図書館デジタルコレクション)。四国や大阪南部から船で運ばれた巨石を山上まで人力で運び上げた。

高野山真言宗 総本山金剛峯寺  
高野山執務公室

住所／高野町高野山132  
電話／0736-56-2011  
<https://www.koyasan.or.jp/>



## 聖地 リゾート 和歌山



### 仏不在の56億7000万年の間、 世を守る地蔵菩薩に 人々は願いを込める

釈迦の入滅後56億7000万年後に弥勒菩薩が現れるまでの間、人々を救うとされる地蔵菩薩。弘法大師空海は弥勒菩薩とともに説法することを願い入定したという。奥之院には一石五輪塔と同様に、名も無き無数のお地蔵様が奉納され祀られている。信心深い方々がお地蔵様にお化粧したり、前掛けを一つ一つ掛け替えているそうだ。

①御廟橋の手前に並ぶ15体の水向地蔵。②お化粧地蔵と呼ばれるが、実は弘法大師を模ったもの。化粧をすると願いごとがかなうと言われている。③大きな杉の洞の中に設置されているお地蔵様。④どこかユーモラスなお地蔵様。⑤仲良し地蔵。



奥之院の無縁塚に安置されている一石五輪塔。工事や災害の際に出土した。

## 祈りの聖地・高野山で 人々は五輪塔に想いを込める

標高約900mに位置する高野山。蓮の花に見立てた八葉の峰々に抱かれる山上盆地に広がるのは、弘法大師空海が開いた真言密教の聖地。「なかでも奥之院は、お大師様が今も世の平安を願って祈り続ける御廟がある神聖な場所です。参道には約20万基といわれる供養塔や墓石が立ち並び、その森厳で神秘的な雰囲気魅せられて、世界中から多くの方がお参りに来られます」と語るのは総本山金剛峯寺高野山執務公室の中村光観さん。供養塔の中でも特徴的な「五輪塔」は、「地・水・火・風・空」を表す5つの石材からなり、それぞれに梵字が刻まれている。密教では、精神的要素である「識」を加えた6つの要素が宇宙を構成すると考えられており、宇宙全体、そして密教の最高仏である大日如来の姿を表しているという。山麓の慈尊院から弘法大師御廟まで続く参道に道しるべとして立てられた「町石」や壇上伽藍にある根本大塔なども五輪塔だ。

厳かな気持ちで参道を歩くと、諸大名や有力者によって建てられた数々の五輪塔が視界に入ってくる。そして足元には、杉の巨木の合間に無造作に置かれた小さな五輪塔を見つけたことができる。「これらは、二石五輪塔といい、庶民が奉納した供養塔でありお墓であり、仏様ともいえます。



「これらの五輪塔はサンスクリット語ではなく、「地・水・火・風・空」と漢字が刻まれている珍しいものです」と語る中村さん。

す。いまだに土中や草木に埋もれているものも多く、その総数は数えきれません。自分の家の近くで拾った石なのか、道中に見つけた石なのか。自ら刻んだものもあるでしょうし、誰かに作ってもらったものもあるかもしれません。祖先父母の供養や自身が極楽浄土へ行くために奉納されたものといわれています。かつての奥之院は、今とは違い樹木が鬱蒼と生い茂る寂しい場所でした。しかし少しでも「お大師様のお近くに」と草木を分け入り奉納したのでしょうね。ここは人々の願いや想いがお大師様に向かって集約していく地だといえます。「人々の願いが込められた様々な大きさの五輪塔。その想いの尊さに大小はな



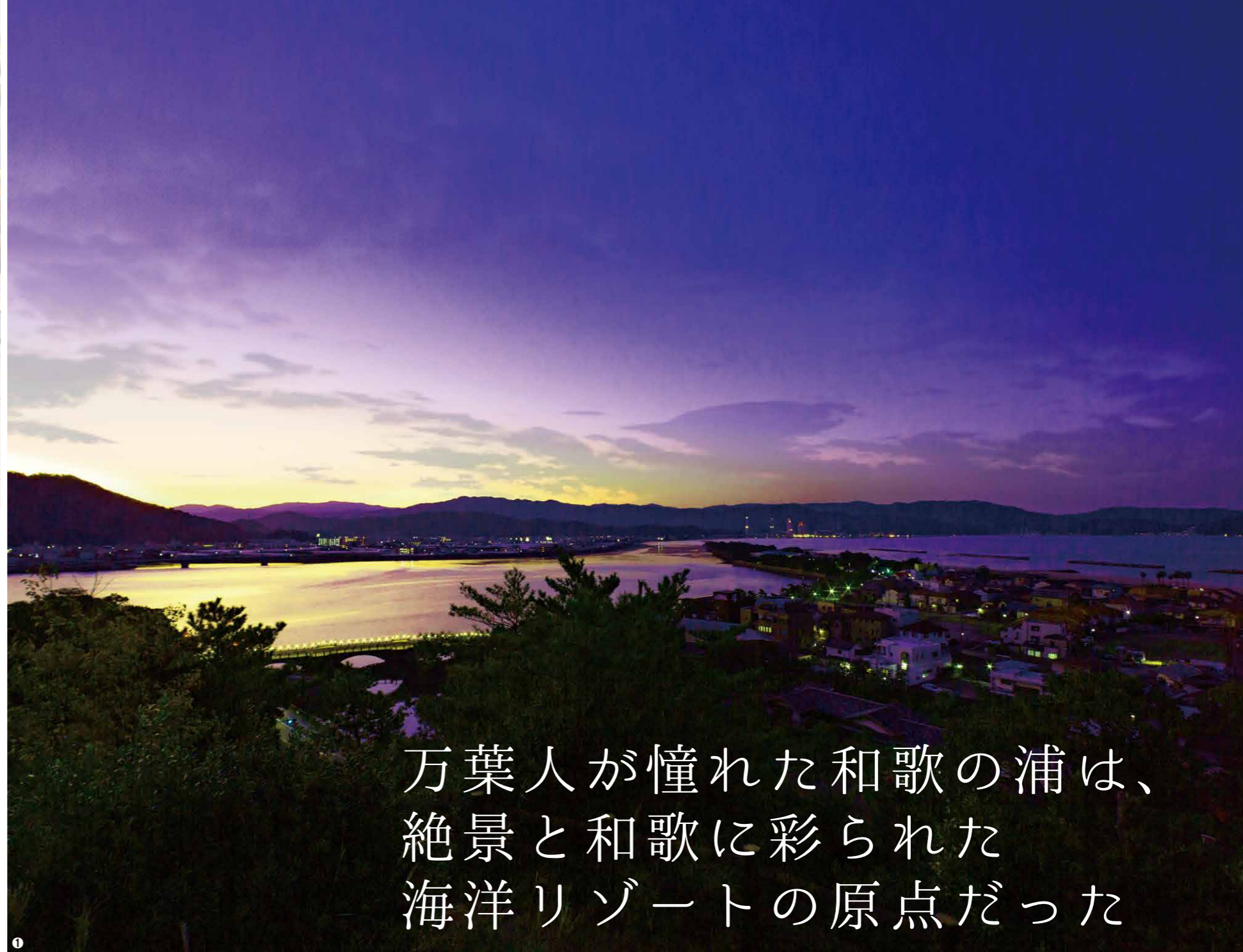


**玉津島神社**  
住所／和歌山市和歌浦中3-4-26 電話／073-444-0472  
<https://tamatsushimajinja.jp>



① 1300年前に聖武天皇が逃れた奠供山から臨む朝焼け。左手に名草山、右手にあるのが片男波。② 奠供山を背景に建つ玉津島神社。和歌三神のひとつとして、県名のルーツにもなった。③ 玉津島神社では今年も毎年、春と秋に和歌の会が催される。④ 和歌山市内の高校生が奉納した和歌。⑤ 玉津島神社権禰宜の遠北さん。⑥ 大和国と紀伊国との境にある真土山にある飛び越え石。ここを飛び越えると紀伊国となる。⑦ 玉津島神社に奉納されていた三十六歌仙額。写真は左から山部赤人、柿本人麻呂、小野小町(和歌山市立博物館に寄託)。

## 聖地 リゾート 和歌山



# 万葉人が憧れた和歌の浦は、 絶景と和歌に彩られた 海洋リゾートの原点だった

白くなる山際、名草山の向こうから朝日が昇る。水面が鏡のように空を映し、刻一刻と輝きが増す。潮の満ち引きと雲の流れに時の移ろいを感じる頃、多くの歌人たちが魅了してきた和歌の浦の絶景が息つき始める。

玉津島が初めて文献に登場するのは、聖武天皇が即位した724年の玉津島行幸。当時は今よりも海面の位置が高く、奠供山をはじめ鏡山や妹背山など6つの島山は、海面から少しだけ顔を出し、まるで数珠の玉が連なつて浮かんでいるように見えたと言います。玉津島神社の本殿がある奠供山に登った聖武天皇は、その美しい景色に感動し、弱浜(わかひら)ではなく、明光浦(あけのうら)と名を改め、管理者を置き景観を未長く守り御霊を祀るように詔勅(しゅうちやく)を発しました。その時、同行していた山部赤人が詠った、若の浦に潮満ち来れば濁を無み葦辺をさして鶴鳴き渡る、という玉津島賛歌は、あまりにも有名です。その後、紀貫之が赤人の歌を、古今和歌集に取り上げたことで、和歌の浦は内陸部に位置する都の人々にとつて憧れの地となった。言葉が宿るとされる和歌は神々に捧げる言葉であつたと同時に、はじめて海に臨んだ感動を、歌に詠むことで記憶にとどめ、都で待つ家族や友人に届けたのであろう。

現在、コロナ禍の自粛生活を経て、自分自身を見つめ直し、それを言葉にしたいと、SNSを中心に短歌や和歌がブームになりつつあるという。2024年は、玉津島行幸から1300年という大きな節目の年を迎え、記念大祭が行われます。これからも和歌という日本語の優雅な文化と共に、豊かな自然に囲まれた海辺の美しい和歌の浦の景色をいつまでも守り続けなければならぬと思つていますと遠北さん。時代は変わったが、和歌の浦は和歌の聖地であり続けている。

## 近畿地方最大級の和歌浦干潟は、 約300種類の絶滅危惧種が 命を繋ぐ“最後の楽園”

和歌の浦の干潟は、約47ヘクタールで近畿地方最大クラス。そこに生息する生き物は、魚類、貝類、エビやカニなどで数千種類といわれ、全国屈指レベル。そのうち、ハクセンシオマネキ、ワカウラツボなど県レッドデータブックに掲載されている絶滅危惧種などの貴重な生き物は約300種類。多くの干潟で絶滅、または減少している中、国の重要湿地に選定されている和歌浦干潟は、生き物の“最後の楽園”と呼ばれている。

① 東京ドーム12個分の大きさに相当する和歌浦の干潟。  
② 絶滅危惧種に指定されているハクセンシオマネキ。オスは左右どちらかのハサミが大きい。③ 2022年に改訂された和歌山県レッドデータブック。783ページに1,655種の絶滅危惧種が掲載されている大作だ。



日本遺産「絶景の宝庫 和歌浦」  
<https://wakanoura-nihonisan.jp/>





# 発酵の聖地

和食に欠かせない多くの発酵食品のルーツは和歌山にある。法燈国師(覚心)が、金山寺味噌の製法を宋から持ち帰ったのが鎌倉時代初期のこと。その副産物として醤油が生まれ、水質がよく海運が発達していた湯浅や御坊で造られるようになる。また和歌山は豊かな海に囲まれた国であり、サンマやサバを使ったなれ寿司や鯉節など多くの発酵食品が生まれた。さらに深い森の伏流水や農産物を利用したお酢や酒といった醸造食品も多く造られてきた。

優れた素材に恵まれ、微生物を巧みに使いこなし、豊かな発酵文化を築いてきた和歌山。それは進取の気性に富んだ紀州人の試行錯誤の歴史であり、新しい世界との出会いでもあった。



## 【紀の川漬】

水分が多く甘みのある和歌山大根を「きらず」と呼ばれるおから床に漬けた紀の川漬。やさしい感じの乳白色が美しく、あっさりとした甘味と爽やかな酸味で上品な旨味が特徴。

協力：(株)河島本家  
住所／和歌山市湊 1757  
電話／073-451-3360



## 【柿酢】

ビタミンなど栄養成分が豊富な柿。生産量日本一を誇る和歌山県産の「平たねなし柿」のみを使用して造られるお酢。水を一滴も使わずに、まるごとの柿を使用し、2年以上、長期熟成されたまろやかな味わいの柿酢。

協力：田村造酢(株)  
住所／かつらぎ町妙寺 285 電話／0736-22-0058



興国寺 (由良町)



江戸時代印南漁民顕彰の碑 (印南町)

## 【さんまなれずし】

「なれずし」とは、酢をいわずに魚を塩と米で乳酸発酵させた寿司のこと。「さんまなれずし」は、サンマを1年程度塩漬けにしてから米飯と合わせ、さらに約1ヶ月ほど漬け込み出来上がる手間のかかった料理で、中には完全に液化化した30年物もある。

協力：東宝茶屋  
住所／新宮市横町 2-2-12  
電話／0735-22-2843



## 【醤油】

金山寺味噌の上澄み液から偶然発見されたといわれる醤油。大豆や小麦を原料に、麹菌の働きにより造られる発酵調味料。和歌山では伝統的な製法にこだわる醸造所も多い。

協力：(株)角長  
住所／湯浅町湯浅 7 電話／0737-62-2035

協力：堀河屋野村  
住所／御坊市園 743 電話／0738-22-0063



## 【金山寺味噌】

白瓜や丸なすなどの夏野菜を漬け込んで作るおかず味噌。宋に渡った禅僧覚心が、径山寺での修行の傍ら学び持ち帰った製法が現在の金山寺味噌の始まりと伝わる。

協力：太田久助吟製  
住所／湯浅町湯浅 15  
電話／0737-62-2623

## 【酢】

口あたりが柔らかな軟水である那智山系の伏流水を使用した酢。熊野地方で育った低農薬米を主な原材料に、熊野杉の木桶を用いた古式醸造で造られる昔ながらのお酢。

協力：(名)丸正酢醸造元  
住所／那智勝浦町天満 271  
電話／0735-52-0038







①② 1日5組限定のプライベートヴィラ「グランオーシャンリュクス海熊野」。捕鯨船をモチーフに斜め張りにした壁が特徴の外観。目前に美しい大海原が広がるラグジュアリーな空間。夜になれば、波音とともに時折鯨やイルカの鳴き声が聞こえてくるという。住所/太地町太地2906 電話/0735-59-3060 ③セミクジラの実物大模型をはじめ、貴重な資料が揃うくじらの博物館。④ドーム型の大水槽では、珍しいアルビノのバンドウイルカが飼育されている。⑤ホエールウォッチングは、体長16mにも達するマッコウクジラを目にできる人気のアクティビティ(串本町)。



太地町立くじらの博物館  
住所/太地町太地2934-2  
電話/0735-59-2400  
<http://www.kujirakan.jp>

## 聖地 リゾート 和歌山



黒潮がおどる熊野灘に面した太地町は、長い歴史を誇る捕鯨の町であり、日本遺産に認定された「鯨とともに生きる」町。

地域の歴史的な魅力や特色を通じて日本の文化や伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度「日本遺産」。2016年、熊野灘の捕鯨文化に関するストーリー「鯨とともに生きる」が認定された。江戸時代初期から組織的な古式捕鯨が行われ、人々の暮らしは鯨によって支えられていた。熊野灘沿岸地域には、鯨に関わる祭りや伝統芸能が今も残されている。

①風見鶏ならぬ風見鯨がある梶取埼灯台。②日本遺産の鯨踊りや鯨太鼓が披露される、伝統的な太地浦くじら祭。③国重要無形民俗文化財である河内祭。古式捕鯨で使われた船を飾り付けた御舟が華やかに川を渡る。④鯨骨の鳥居が迎える恵比寿神社。⑤古式捕鯨の総指揮所であった山見台と狼煙場跡が残されている燈明崎。

日本遺産「鯨とともに生きる」  
<https://kumanonada-nihonisan.jp>



# 鯨とともに生きる太地町 変化していく鯨との絆

人口約3000人、美しいリアス式海岸を擁する太地町は、古式捕鯨発祥の地として知られる小さな港町だ。鯨一頭で七浦が潤うといわれるほど、住民に多大な恩恵をもたらす鯨は、海の神「エビス」として信仰の対象となる特別な存在だった。そんな太地町の人々と鯨の密接な関係は、形を変えながら現在も受け継がれている。

1969年に開設された、世界的にも珍しい鯨専門の博物館「太地町立くじらの博物館」では現在、9種・約35頭の鯨とイルカを飼育。捕鯨の歴史・文化や鯨の生態に関する多様な資料の展示に加え、水族館や湾を利用したクジラショーなどによって、訪れる人の心を癒している。同館スタッフの飯塚明日菜さんは、「私たちにとって最も大切な仕事は、鯨やイルカの健康管理を徹底することなんです」と話す。鯨の体調や行動のさまざまな変化に気付けるよう、鯨それぞれに決まった担当トレーナーがついているという。日々、トレーナーたちは、鯨との信頼関係を築き、それぞれの特徴を伝えられるよう、ショーの演目を作り上げていく。「トレーナー自身も成長に、鯨は必ず応えてくれます」。

一対一で鯨との絆を育み、観光客や一般市民に向けてその魅力を発信する傍ら、同



種類や大きさによって、異なる個性があるという鯨。くじらの博物館では、それぞれの魅力をクジラショーで多くの人に伝えている。

館は各研究機関と共同で鯨の生態について解明を進めている。「鯨類の生態は、実はまだまだ分からないことばかり。鯨と向き合いながら研究に力を入れていくことも、博物館の使命だと思っています」と飯塚さん。2024年には、鯨類の研究所の開設も予定されている。鯨とともに生きることを目指し、やがて太地町は鯨の専門家が集まる先進的な学術都市に。太地町の人々と鯨のつながりは、変化しながらこれからも続いていくだろう。



# 多様化する若者たちと 新しい時代を築く

今の若者たちの多様化する価値観に対して、行政や企業はどのように発想を転換していくべきなのか。  
新著「恋愛結婚の終焉」を発表した牛窪恵さんと少子化対策や世代間ギャップについて語り合った。

岸本知事(以下岸本) ●私は少子化自体は

開の東京大学の研究を見ても、恋愛意欲

が前提で、頑張ればその先にいいことが

い。そうすると愛する家族が養えない。

ある程度しかたがないと思っています。

の高さは、正規・非正規という雇用形態

待っていると思えましたし、一つの船に

だから彼らは自発的に集まって、町おこ

というの、女性が高学歴化し社会的地位

で異なるほか、年収が低い人ほど恋愛を

乗っている安心感もありましたが、今の

しをやるうぜ、町を元気にしようよって

位が上がると自然と出生率は下がる傾向

する意欲も低いという調査結果が出てい

時代は多様化し、船が進む方向も一つで

ことになるんです。高度成長期のちよっ

にあるからです。日本は結婚しないとい

ます。さらに驚いたのは、これまで言わ

なく、世代間ギャップも顕著です。

と後を追いかけた私たち団塊の下の世代

供をつくらないという先進国の中では少

れていた男性だけでなく女性についても

岸本 ●私の場合、草の根で選挙運動をし

てきましたので、これまで若い人たちと

し変わった国なので、結婚する人が減っ

ていた傾向がみられたという部分です。

触れ合う機会がたくさんありました。一

番若い友人たちは今、30代になっていま

ていることが少子化の原因ではないで

しょうか。結婚しない理由は様々ですが、

ですが、ともかく家族思いで真面目なん

すね。様々な職業の方がいるので一般

男女とも所得が低い、あるいは非正規の

雇用形態であるため経済的な面からも結

化はできないですが、地元で家業である

スーパーマーケットや鉄工所を継いで割

婚がしづらい。牛窪さんの新しい著書、恋

愛結婚の終焉(光文社新書)では、恋愛と

と早い年齢で結婚され、お子さんが3、

4人いるような方々です。中には高校を

結婚を一緒に考えるから駄目なんだと分

析されていますね。

中退して家出をしている人もいます

ね。

牛窪恵(以下牛窪) ●多くの人は当たり前

責任」という言葉を重くとらえ、飲んで周

牛窪 ●今の39歳位より若い世代にとつて

は、まず生活や家族が大切で、地元志向も

のように、結婚には恋愛が必要だと思っ

りに迷惑をかけたり、次の日の仕事に差

は、まず生活や家族が大切で、地元志向も

非常に強いという調査結果が出ていま

ているかもしれませんが、今の若い人た

し障ったりしないよう、責任を負うリス

クを避けていたんです。私たちの青春時

代は、日本が経済成長していて、終身雇用

ちは、結婚が「贅沢品」で、恋愛が「嗜好品

だと考えているようです。2020年公

町に元気がないと商売がうまくいかな

す。イオンが全国に進出し始め、ネット



## 知事対談

牛窪 恵 × 岸本周平

世代・トレンド評論家  
マーケティングライター

和歌山県知事

協力: ザ・プリンスギャラリー 東京紀尾井町



ショッピングもできるようになり、わざわざ都会に行かなくても買物ができる環境が整い、地元志向が強くなったのだという経済学者もいますが、私は、知事が言われるように、家族や自分たちの足元をもっと大事にしようという意識のほうが大きいのではないかと感じます。

**岸本** ●和歌山県内にも商店街がありますが、やっぱりシャッター通りになっています。おじさん世代は、これらを何とかしなければならぬという発想で補助金を何年も注ぎ込んできましたが、シャッター通りはどんどん増えています。しかしその若者たちは「周平さん、なぜ商店街を活性化しなくてはならないのですか。僕らが子供の頃からもう閉まってましたよ」と言ってますね。「商店街じゃなくてロードサイドかもしれないけど、自分たちが商売するには十分な商圏があるので、それでいいじゃないですか。昔は良かったというおじさんたちのノスタルジーに付き合う気はサラサラありませんよ」と。また彼らに言われたのは「人口を増やすとか減らさないとか何考えているんですか。日本全体の人口が減る中で和歌山だけキープするってことはよそから取ってまで増やす必要はないですよ」「人口が減ったって、和歌山が好きなのが集まって、わいわいガヤガヤやって楽しけりゃいいじゃないですか」と。教えられる

ることはたくさんありますね。今では「減るのはしょうがない」と私も言えるようになりました。いまさら「産めよ増やせよなんていう時代でもないし、人口は自然に減るので、減った人口で何をするか、という方向に発想を転換していかなきやいけないと思っています。

### 幸福追求の権利はみんなに平等にある

**牛窪** ●一方でLGBTQも重要な課題です。米国ではZ世代(※)の5人に1人が、自分はLGBTQではないかと感じているとの調査結果もあります。日本も前回の衆院選直前に行われた調査では、若者が政治に求めることの第1位が「ジェンダー平等」でした。日本では現状、同性同士だと、結婚に似た生活形式をとっても、子供はどちらかの籍にしか入れません。

※同調査におけるZ世代の定義は1997~2003年生まれ

# 知事対談

## 牛窪 恵 × 岸本周平

世代・トレンド評論家 マーケティングライター  
和歌山県知事

養子縁組などを含めて制度を見直す時期であろうと思います。

**岸本** ●日本には基本的人権の尊重をうたった憲法第13条がありますが、私は憲法で一番大事なのはこの条文で、とても素敵な条文だと思っています。全ての人に「幸福追求の権利」が保障されているんです。そうするとLGBTQの方々にとっても幸福追求の権利が憲法で保障されているので、それに反するならば法律を変えるべきで、制度は全て平等にすべきだということになります。和歌山県庁では、私が知事になる前から制度運用上の同性パートナーシップは認められていたが、いわゆるパートナーシップ宣誓制度にはなっていないだったので、今制度を作ろうとしている最中です。いろんな考え方を持った方にも「幸福を追求する権利はみんなに平等にあるんだ」と説得すればわかっていただけると信じています。

### 恋愛と結婚は「混ぜるなキケン」

**牛窪** ●高度経済成長期やバブル期までは、女性は家庭を守り、働く男性をサポートするとの認識が根ざしていました。ですが、今は共働きが7割で、女性は未来の夫に家事や育児の能力を、男性は未来の妻に経済力を求めるようになりました。今も恋愛では、男性に「力強くエスコートしてほしい」とか、女性に「子供が好きでいに支え合えるパートナーを得る意味でも、非常に有効だと思っています。逆に、結婚に恋愛力が必要なのだから、恋愛が特技だと胸を張る人より、恋愛が苦手でも信頼できるパートナーの存在を探そうが理に適っているのではと考えます。

**岸本** ●私もそうなんですけど、年配の人間には、今、現実にかけている現象や若い人たちの気持ちがわからないことがあります。おじさんやおばさん世代が作った古い制度を改めて、ギャップを早く解消する以外に解決策はないですね。

**牛窪** ●バブル世代は今50代から60代前半になっていますが、特にこの世代までの男性は恥ずかしいところを見せたくない方が多いので、「部下に信頼を得たいのだが」と悩むケースが増えています。私が研修などでお伝えするのは、「わからないことは恥ずかしがらず、若い世代に聞いてください」ということです。今若い人たちも、自己肯定感が低い傾向があるので、上司から「教えてくれる?」と聞かれると、部下は役に立てたとむしろ喜んでくれる可能性が高い。そういうことを積み重ねていくことで、お互いに等身大の関係を築くことができるのではないのでしょうか。

料りが趣味です」と言っただけで、イメージしているのにもはや恋愛と結婚で異性に求めるものが180度違うんです。結婚となれば、男性は妻に昭和の男子力のようなものを、女性は夫に昭和の女子力のようなものを求める。恋愛の延長に結婚がないのです。調べると恋愛と結婚、出産を三位一体として考える「ロマンチック・ラブ・イデオロギー」の概念は、日本ではたつた半世紀程度の歴史しかないことがわかってきました。それどころか脳科学的にも、恋愛と結婚は元来、混ぜるなキケンだそうなのです。

今40代後半位ですが、この世代は就職しようという時にバブルがはじけ、就職氷河期が訪れたこともあって、今も結婚せずに親と同居している比率が非常に高いんです。2025年には団塊世代全員が75歳以上になります。このままでは介護や医療の現場での人手不足から、誰がお世話をするんだと社会問題が起きます。これまでは親にご飯を作ってもらい、家賃代わりに月数万円を家に入れば許され、経済効率がいいと感じる独身者も多かったのですが、これから一人で親を介護しなければならなくなると、仕事との両立が難しくなる。私は結婚という制度は、お互

### 等身大の関係を築く

**牛窪** ●団塊世代全員が後期高齢者になることで起きるとされる、介護の「2025年問題」に危機感を持っています。団塊世代の親の介護に関わる団塊ジュニアが



牛窪 恵

世代・トレンド評論家 マーケティングライター  
立教大学大学院ビジネスデザイン研究科客員教授 修士(MBA/経営管理学)  
東京生まれ。1991年日本大学芸術学部卒業後、大手出版社入社。2001年マーケティングを中心に行うインフィニティ設立。トレンド・マーケティング関連の著書で「おひとりさま」「草食系」を世に広めたほか、テレビのコメンテーターとしても活躍。  
和歌山未来創造プラットフォーム・アドバイザーボードメンバー。



対談の動画を「YouTube和歌山県公式チャンネル」で配信中  
<https://www.youtube.com/@PrefWakayama>





聖地  
リゾート  
Seichi Resort  
WAKAYAMA  
和歌山

# 野中の一方杉

継桜王子(田辺市中辺路町)の境内を覆うようにそびえ立つ杉の巨木群。樹齢約800年といわれ、8本のうち、最大のものは幹周り約8m。県指定天然記念物の名木であり、御神木である。不思議なことにすべての枝が南にある熊野那智大社を慕うように枝を伸ばしていることから、「一方杉」と呼ばれるようになった。また「南方曼陀羅の風景地」の1つとしても知られ、神社合祀令による樹木の伐採に反対した南方熊楠が保護を訴えた鎮守の森でもある。





「すさみに暮らす人々が主人公、私は思いに寄り添う伴走者です」と源口さん。



①社会貢献型インターンシップ「クラダンチャレンジ」で集まった学生たち。地元漁師さんたちと共に未利用魚の活用や収益獲得などの課題と向き合い目標達成までの道筋を考えた。②都会の子供たちと地元住民が交流しながら農業や漁業などを体験する教育旅行を実施。田植えなどを通じて「生きる知恵」を学ぶプログラムなどを体験した。③いつも身近に美しい海を感じられるのもすさみ町の魅力。「見慣れた景色でも毎日表情が異なり、癒されます」。④東京都内のレストラン「100本のスプーン」で期間限定メニューとして採用された未利用魚「シイラ」の料理。⑤未利用魚である大きな「シイラ」を抱き抱える地元漁師さん。源口さんとはもう友達のような関係だ。

## FRONT110に チェックイン

①すさみ観光案内所「FRONT110」は元警察署とは思えないオシャレな外観。海岸沿いに一際目立つ色合いで、町のランドマークだ。②案内所の奥にある留置所は、手を加えず当時のまま。珍しい体験にちょっとドキドキ。③囚人服を着たマグショットが撮影できるスペース。仕上がりはサスペンス映画のワンシーンのよう。④2階は広いコワーキングスペース。窓から周参見湾に浮かぶ稲積島を眺めながらゆったりとワーケーションもおすすめ。屋上にはフリースペースやラウンジも。



## 地域の魅力を地域の人とともに繋いでいく

合同会社シェアローカル ローカルコーディネーター ● 源口 葉月さん

太平洋に面し入り組んだ美しい海岸線が自慢のすさみ町で、地域の魅力を引き出し、発信しているのは、大阪生まれの源口葉月さん。コロナ禍で在宅勤務が続く中、すさみ町で知人が営むゲストハウスを訪れたのが移住のきっかけだった。「滞在中、サーフィンで骨折してしまい、病院に担ぎ込まれました。ところがそのおかげでこの町に住む多くの人に出会い、地元愛や仕事への誇りなど熱のこもった話を聞き、心を揺さぶられました」。大阪に戻り入院している間もすさみ町のことを忘れられず、自分が町のためにできることを企画書にまとめメールを送った。すると、退院後に町役場に来てほしいと連絡が入り再びすさみ町へ。町長の「やってみよう」という一言に背中を押され、2020年の12月、町内の古民家を借り、大阪とすさみ町の二拠点生活が始まった。

最初に手掛けたのは、海沿いにある元警察署の建物を観光案内所として再生するためのコンセプトづくり。町全体をひとつの宿に見立て、観光客がチェックインすると、スタッフはフロントマンとして地域の魅力あるコンテンツを案内する。観光客と地域の人とが交流する場にもしたいと願いを込めた観光案内所「フロント110」が誕生した。次に地元漁師らとともに海のフードロス削減、漁師の収入向上を目指した「漁師小屋プロジェクト」を立ち上げた。市場に出回らない未利用の魚にスポット

### 合同会社シェアローカル

- 住所 / すさみ町周参見2718
- 電話 / 090-3924-8470 <https://sharelocal.jp>
- FRONT 110
- 住所 / すさみ町周参見4581-14
- 電話 / 0739-34-3200



トを当て、ネットを通じ賛同してくれる企業を探し、首都圏のレストランのメニューになるまで漕ぎ着けた。そして現在は、廃校を宿泊施設として活用し、教育旅行を受け入れ、狩猟や備長炭づくり、漁師体験など、地域の人々と学生を繋ぐプログラム「生業体験」を提供している。「昨年、すさみ町に完全移住しました。これからは、すさみならではのコンテンツを生み出し、県外や企業と繋げ、この町に新たな価値を生み出していきたい」と源口さん。大好きな海を眺めながら日々町中を駆け回っている。

## 稲積島を眺めながら アウトドア体験。 自然豊かなすさみ町



南紀白浜空港から車で約30分という好立地にあるすさみ町。海岸線は枯木灘と呼ばれる和歌山でも有数の絶景エリア。町のシンボルともいえる稲積島を眺めながらの散歩も楽しい。もちろん美しいシーサイドのキャンプは開放感抜群で、BBQやSUP、カヤックなどアウトドア体験もFRONT110で申し込み可能。



2006年に和歌山で化石の一部が発見され、注目を集めたモササウルスの化石模型。形状だけでなく、限りなく本物に近い着色にもこだわっている。

頭骨の化石模型

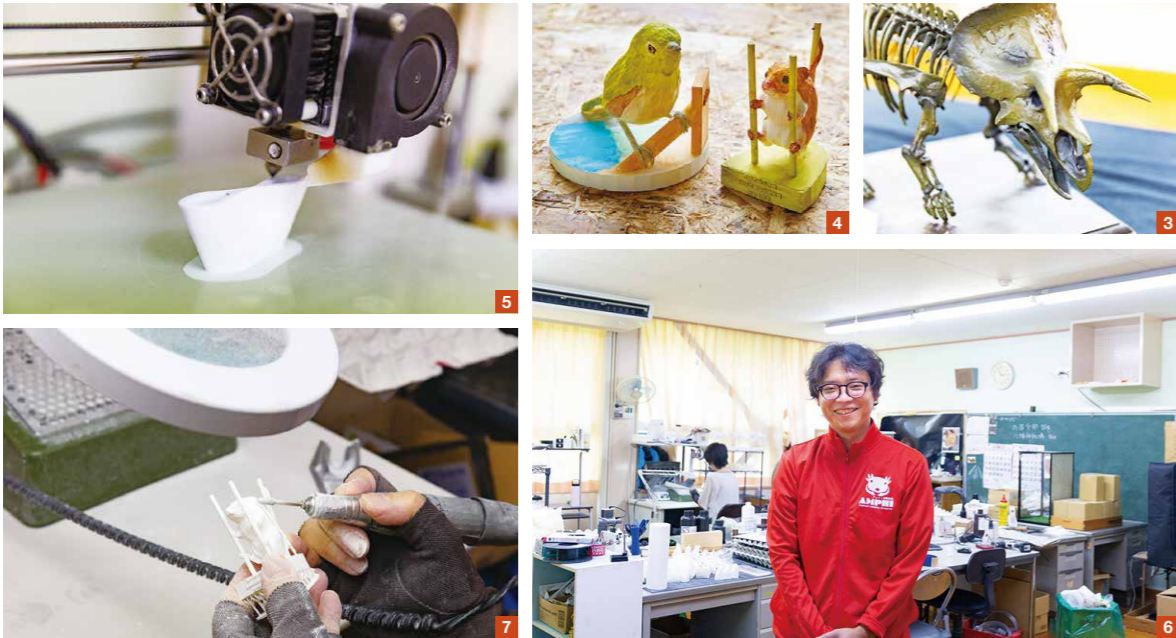


歯の化石模型

棚田など日本の原風景が残る紀美野町に、最新鋭の3Dプリント技術を使った模型専門会社「アンフィ」がある。主に制作しているのは、博物館などに展示される生き物や骨格の模型で、国内外から注目されている企業だ。両生類の研究者でもある代表の佐々木彰史さんは、「私たちの強みは、3Dプリントの技術に専門性を組み合わせられること。元博物館職員や化石の研究者など専門的な知識のあるスタッフが多数いるので、精巧な模型を作り上げることができるんです」と話す。

## 自然豊かな町で生まれる、

## 本物に忠実な生物模型



①手のひらサイズのトリケラトプス。3Dプリント技術を用いれば、小さなものから大きなものまで自由自在に作る事ができる。②ワークショップで子供たちが着色した、メジロとカヤネズミの模型。③大きな模型の素材には、トウモロコシ由来の樹脂を使用。④スタッフは8人。20台余りのプリンタを使用し、大小さまざまな模型を制作。作業室では、模型のクリーニングや着色が手仕事で行われている。⑤出力された模型に残るサポート材(支え)を削り取る緻密な作業。⑥一般向けに販売されている、手のひらサイズのティラノサウルス。自分で色を塗って楽しむことができる。



制作中の実物大のトリケラトプス。頭骨を完成させるだけで2〜3カ月はかかるそう。

# 凄いな和歌山

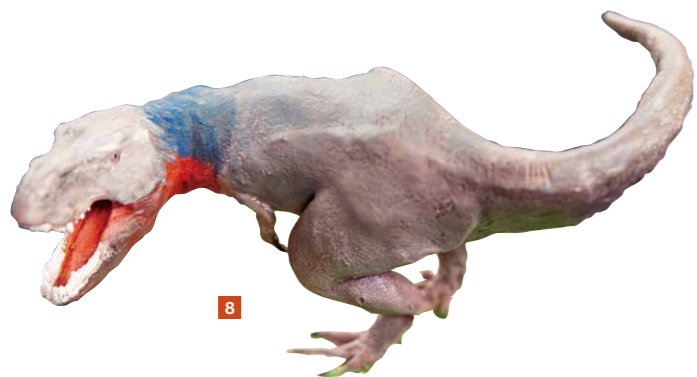
Only one Story

豊かでダイナミックな自然に恵まれた和歌山。しかし凄いなのはそれだけじゃない！あっと驚く技術を持った企業をご紹介します。

## 02

### 3Dプリント×生き物専門家

①シーボルトの「日本動物誌」を元に作られた、オオサンショウウオの模型とオスのアカハライモリ。両生類の研究者である佐々木さんにとって、イモリやカエルは得意分野。②生物の専門家による監修があるからこそ生まれる、キタキツネの精巧な骨格模型。



8

アンフィ合同会社

紀美野町神野市場78  
073-488-5513(10:00~16:00)  
<https://amphillc.thebase.in/>(オンラインで商品販売)



立て、手作業でクリーニングや塗装を施して完成する。緻密な作業の積み重ねで作られた模型は、まるで本物のようだ。今年2月、保育園だった建物を利用して、「きみの自然体験館」を開設。全国から両生類の研究者を集めたフォーラムも開催した。骨格模型や職人とコラボした剥製を展示・販売したり、模型の着色体験を実施するなど、市民も楽しめる場を提供している。「地元の皆さんに還元していきたい」と佐々木さん。革新的なものづくりによる唯一無二の造形物が、紀美野町から、世界に向けて広がっていく。



# 今号の「和」題

旬の和歌山情報をお届けします!

WAI TOPICS 01

## 全国から白浜町に「保育園留学」留学費用を旅先納税の返礼品で充当も

ワーケーションの発祥の地である和歌山県。南紀白浜空港があり、首都圏からのアクセスもよい白浜町で、今年10月から「保育園留学」の受け入れが開始されました。同町は、株式会社キッチハイクと連携し、子育て家族と地域をつなぎ、未来をつくる留学プログラム「保育園留学」を関西初の取り組みとして開始。澄み切った美しさが特徴の日置川がすぐ側を流れ、園から徒歩5分のところには海があります。自然の中での遊びが楽しめる日置川地域で、1~2週間、子供を保育園に通わせながら地域のゲストハウスで田舎暮らしを体験することができます。

この取り組みは、本県と町が共に進めています。



問い合わせ/白浜町総務課企画政策係 電話/0739-43-6598

WAI TOPICS 02

## 熊野古道×サンティアゴ巡礼道「共通巡礼」達成者が5千人を突破



来年で世界遺産登録20周年を迎える「紀伊山地の霊場と参詣道」。2023年10月、「熊野古道」と「サンティアゴ巡礼道」の両方を歩いた「共通巡礼」達成者が5千人を突破しました。田辺市とスペイン・ガリシア州にあるサンティアゴ・デ・コンポステーラ市との共同事業として行われており、巡礼者は共通巡礼手帳を片手に歩きながら、それぞれの巡礼証明のスタンプを押してもらうことで達成できます。記念

すべき5千人目はサンティアゴ・デ・コンポステーラ市にてシンガポール人のジュン・リアン・モクさん(写真右側)が達成登録者となりました。

国内のみならず訪日外国人観光客からも人気を集める熊野古道。2023年3月には、その熊野古道を核として観光地域づくりを担う「一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー」が、観光庁による「先駆的DMO」に選定されました。これは、全国に255法人がある登録DMOに対して公募が行われ、有識者委員会等の審査を経て、世界に誇れる持続可能な観光地域づくりを担う「先駆的DMO」を選定するもので、今回3法人が選定。さらに、より多くの基準を満たす「先駆的DMO(Aタイプ)」として選定されました。

問い合わせ/田辺市観光振興課 電話/0739-26-9929  
問い合わせ/一般社団法人田辺市熊野ツーリズムビューロー 電話/0739-26-9025

**交通アクセス**

- 羽田空港から南紀白浜空港まで約1時間10分
- 和歌山市まで 関西国際空港からバスで 約40分
- 大阪市内中心部から車で 約1時間

和歌山県観光連盟フォトライブラリー(写真貸出)  
https://www.wakayama-kanko.or.jp/travel-agencies-and-groups/photo-library/terms-of-service/

和歌山県PR動画(動画素材貸出)  
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/media/

和-nagomi-バックナンバー  
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/nagomi/

**ふるさと和歌山応援寄附**  
ふるさと納税で、元気なわかやまに。  
1万円以上の寄附で和歌山を味わえる「梅干し」や「醤油」など、プレミアム和歌山の商品等482品の中から贈呈!(県外にお住まいの方が対象)  
※詳しくは、ふるさと納税サイトをご覧ください。  
https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/010500/furusato/

和歌山 人・もの・地域

企画・発行/和歌山県  
発行日/令和5年11月30日  
企画編集/サンケイ広告(株)  
制作/(有)YS'pros  
印刷/中和印刷紙器(株)

和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山)推奨制度  
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならでは”の視点で推奨する。

和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山)推奨制度  
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならでは”の視点で推奨する。



胡蝶蘭フォアスSOSO

## 伝統工芸とコラボした、エシカルな胡蝶蘭

ビジネス用途のお祝いとして代表的なギフトフラワー・胡蝶蘭。気品のあふれる華やかさが喜ばれる反面、咲き終わった後は、陶器の鉢や鉄製の支柱が使用されているため廃棄が大変で、贈り先のストレスになっていた。そんな胡蝶蘭が抱える課題を解決し、本当に喜んでもらえるものを生み出したのが、有田市にある農場「ヒカルオーキッド」だ。

東京農大在学中に出会った胡蝶蘭に惚れ込み、1983年の創業以来、休みなく胡蝶蘭の生育に邁進してきた代表取締役社長の佐原宏さんは、数年前の入院をきっかけに念発起。2022年、資材のプラスチックフリー・不燃ごみゼロを目指すブランド「フォアス」をスタートし、とうもろこし由来の生分解性BIOプラスチックオリジナル水さしや竹ひご、ヒノキの支柱を使った企業向け商品「PREMIUM」を展開。さらに、「画家だった父の影響からいつか農業とアートを組み合わせて何かしたい」と考えていたという佐原さん。その思いから、和歌山の伝統工芸とコラボした商品「SOSO」が誕生した。鉢には紀州漆塗り、支柱には熊野黒竹を使用。さまざまなアイデアにより胡蝶蘭の魅力は広がり、デザイン性の高いインテリアとして、生活にも溶け込むような存在となっている。



柱を使った企業向け商品「PREMIUM」を展開。さらに、「画家だった父の影響からいつか農業とアートを組み合わせて何かしたい」と考えていたという佐原さん。その思いから、和歌山の伝統工芸とコラボした商品「SOSO」が誕生した。鉢には紀州漆塗り、支柱には熊野黒竹を使用。さまざまなアイデアにより胡蝶蘭の魅力は広がり、デザイン性の高いインテリアとして、生活にも溶け込むような存在となっている。

### 胡蝶蘭 フォアス

販売者/有限会社ヒカルオーキッド  
住所/有田市千田2041 電話/0737-23-8985  
価格/フォアスSOSO16,500円~  
オンラインショップ(https://www.hikaru-orchids.co.jp)で販売

令和4年度プレミアム和歌山推奨品  
審査委員奨励賞受賞(胡蝶蘭フォアスSOSO)



和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山)推奨制度  
安心・安全を基本に幅広い分野で優れた県産品を“和歌山らしさ”、“和歌山ならでは”の視点で推奨する。

プレミアム和歌山 検索



残間里江子審査委員長  
審査をするごとに、和歌山県の新たな魅力を発見しています。自然豊かで、おいしいもの、魅力的な品がたくさんありますので、ぜひプレミアム和歌山にご注目ください。



# 【探訪】有吉佐和子が描いた「有田川」の舞台

## 日本一のみかん作りと水害の脅威 たゆまず流れる川のように強く生きる人々



小説の主人公「千代」が、濁流に流されながらも掴まり命拾いしたビヤクシンは実際に存在する。「現実の世界でも、水害のたびに流された人を引っ掛けて助けてきた」と語る御前さん。

和歌山市出身の小説家・有吉佐和子の代表作で「川もの」と呼ばれる紀州三部作の一つ「有田川」。洪水に暮らしを奪われながらも、みかん作りを心の支えに力強く生きていく女性・千代の人生を描いた物語だ。有田市文化協会会長の御前良さんは「物語はフィクションですが、緻密な取材に基づいており、水害の様子やみかんの栽培、方言など現実にも忠実に驚きました」と話す。



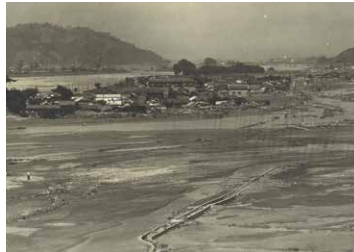
海風や太陽の光を活かす石積み階段状の畑で育てられる温州みかん。紀州徳川家が奨励したことで、有田地域は温州みかんの一大産地に。有田川は江戸へみかんを運ぶ航路としても利用されていた。世界農業遺産に認定申請中。

これまで有田川流域の集落は、何度も川の氾濫による大水害に見舞われてきた。記録されている中で特に大きな被害をもたらしたのは、小説のモチーフになった明治22年、そして昭和28年の大水害だ。いずれも多くの死者や行方不明者を出し、何年もの間、人々の生活に甚大な影響を与えた。

有田川の豊かな水は、大きな災害をもたらし一方で、多くの人々に恵みをもたらしてきた。その代表的な存在が有田みかんだ。江戸時代、山が多く、平地が少なかったことから、米作りだけでは食ひ足りなかった。米作りだけでは食ひ足りなかったから、望みをかけた



昭和28年の水害。豪雨によって有田川の各所が氾濫。川上で盛んだった林業の木材が混じった濁流が、人や建物を河口へと押し流した。陸の孤島となった有田川流域は、食糧などの救援物資は空から受ける以外になかったという。(写真提供:有田市教育委員会)



のがみかんだった。硬い山肌を削り、先人たちが何代にもわたり築き上げた石積み階段園は、現在もみかん作りに活かされている。自然の厳しさと恵みを同時に受ける有田で、先人の思いを受け継ぎながら、過去の災害や復興に学び、人々は千代のように強くたくましく生きていく。



物語の要所となる得生寺の中將姫会式。二十五菩薩に扮した子供達が山内を練り歩く。

みかんを皮ごと4分割する「有田むぎ」。作中でもむぎ方の詳しい描写がある。



2022年にオープンした有吉佐和子の功績を伝える記念館。東京にあった有吉邸が再現されており、見所は有吉の息遣いが感じられる書斎。実際に使用した机・椅子などを展示し、仕事場が再現されている。

### 和歌山市立有吉佐和子記念館

住所／和歌山市伝法橋南ノ丁9  
電話／073-488-9880  
<https://www.ariyoshi-sawako.jp/>



### 有吉佐和子

【ありよしさわこ】

1931年、和歌山市生まれ。東京女子大短期大学を卒業後、25歳のときに発表した「地唄」が「文学界」新人賞候補、芥川賞候補となる。その後、和歌山を舞台にした女性の年代記「紀ノ川」「有田川」「日高川」の川三部作、「華岡青洲の妻」など多数の名作を生み出す。1970年代には、認知症の高齢者介護をいち早く取り上げた「恍惚の人」、環境問題にスポットを当てた「複合汚染」などで、社会派のイメージを確立。旺盛な好奇心と理知的な視点、緻密な取材に基づいた作品が魅力。現代の課題にも通じる「非色」等、今また若者を中心に再注目されている。